<p>議会運営委員長</p>	<p>議会運営委員会委員長報告を申し上げます。</p> <p>去る6月7日午前9時、議会運営委員会を開催しました。</p> <p>本日をもって招集されました令和6年第2回厚沢部町議会定例会の議会運営につきましては、議事日程によることとし、会期については、本日から6月14日までの2日間とすることに決定しましたので、報告いたします。</p> <p>次に、一般質問について、2名の通告がありました。</p> <p>意見書案については、お手元に配付のとおり提出することにしましたので、御賛同よろしくお願いたします。</p> <p>あらかじめ関係資料をつけて御覧いただいておりますので、一括議題とし、朗読及び質疑、討論を省略することにします。</p> <p>提出案件の審議については、質問者、答弁者とも簡潔明瞭な質疑、答弁に心がけ、円滑な議会運営が行われますよう御協力をお願いし、委員長報告といたします。</p>
<p>議長</p>	<p>お諮りします。本定例会の議会運営につきましては、委員長報告のとおりとし、会期は本日から6月14日までの2日間にしたいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）</p> <p>異議なしと認めます。したがって、会期は本日から6月14日までの2日間と決定しました。</p> <p>提出案件は、補正予算案1件、条例の制定案及び一部改正案4件、組合の規約変更案1件、契約の締結案1件、字の区域変更案1件、繰越明許費の繰越報告1件、意見書案4件、閉会中の継続調査の申出につきまして1件、議員の派遣1件の計15件であります。</p>
<p>議長</p>	<p>町長から提案理由の説明について発言を求められておりますので、これを許します。</p> <p>町長</p>

で、子供が主役のつくりとなっております。保育園留学での体験が、よりかけがえのないものとなることを確信しており、全国の子育て世帯に自信を持って提供できるものであると考えております。

今年度もさらに2棟の滞在施設を整備する計画となっており、保育園留学を中心とした関係人口、移住交流人口の拡大に資する施策をさらに推し進めてまいります。

次に、本定例会に提案いたします案件は、補正予算案1件、条例の一部改正案3件、条例の制定案1件、広域連合規約の変更案1件、契約の締結案1件、字の区域の変更案1件、繰越明許費の繰越報告1件の計9件であります。

議案第1号の令和6年度厚沢部町一般会計補正予算につきましては、3,360万4,000円を追加し、予算の総額を50億4,983万7,000円とするもので、主な内容は、総務費では、内閣府の地方創生SDGs課題解決モデル都市支援事業を活用した子育て支援ギフト開発に伴う地域力向上プロジェクト業務委託料のほか、戸籍情報システム改修委託料等であります。

民生費では、定額減税補足給付金給付支援業務委託料、特養あっさぶ荘やまぶき浴室改修事業費補助金であります。今月から開始となった定額減税は、1人当たり所得税で3万円、住民税で1万円の計4万円の減税額となりますが、最終的に減税額を控除し切れない方に対して、その差額分を現金で給付するための準備費用を計上しております。

衛生費では、出産・子育て応援給付金、農林水産業費では、中山間地域等直接支払交付金事業傾斜計測業務委託料、林道橋梁補修工事設計業務委託料であります。

商工費では、函館空港アクセス改善プラットフォーム負担金、教育費では、義務教育学校整備検討委員会の開催経費と基本方針策定支援業務委託料、鶉小学校閉校記念事業費、給付型奨学金

の増額補正であります。

議案第2号の厚沢部町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定につきましては、保育所等における満3歳以上の児童に係る保育士、保育従事者の配置基準の改正が行われたことにより、本条例の一部を改正しようとするものであります。

議案第3号の厚沢部町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定につきましては、介護保険法施行規則の改正が行われたことにより、本条例の一部を改正しようとするものであります。

議案第4号の厚沢部町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定につきましては、地方自治法の改正が行われたことにより、本条例の一部を改正しようとするものであります。

議案第5号の厚沢部町いじめの防止等に関する条例の制定につきましては、現在、本町では、重大事態となるいじめ案件は発生しておりませんが、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための体制を整備し、子供たちが誰一人取り残されず、安心して学ぶことのできる環境の整備をより一層進めていくため、本条例を制定するものであります。

議案第6号の北海道後期高齢者医療広域連合規約の変更につきましては、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律によるマイナンバーカードと被保険者証の一体化に伴う規約の変更であります。

議案第7号の厚沢部町うずら温泉改修工事建築主体工事請負契約の締結につきましては、去る6月6日、一般競争入札で株式会社厚峰建設、能登谷建設株式会社、株式会社田畑建設の3者が

<p>議 町</p>	<p>長 長</p> <p>について、以下4点、町長の所見を伺います。</p> <p>1点目です。檜山広域行政組合の各町の消防団員の定数と実団員数は何名ですか。</p> <p>2つ目です。消防団員に対する7町の報酬は幾らとなっておりますか。</p> <p>3つ目でございます。消防団員の7町の定年は何歳となっておりますか。</p> <p>4つ目です。機能別団員制度とは、どのような内容ですか。</p> <p>以上4点、よろしく申し上げます。</p> <p>町長</p> <p>消防団員についての御質問であります。</p> <p>消防団は、地域防災の中核として、自らの地域は自らが守るという使命感の下、災害対応をはじめ、地域コミュニティーの維持、振興に重要な役割を果たしております。一方、近年の大規模な地震や大雨災害に対応するため、消防団の維持、強化は大きな課題となっております。</p> <p>1点目の檜山広域行政組合の各町の消防団員の定数と実団員数ですが、令和5年4月1日現在で、厚沢部消防団が条例定数110人に対し、実団員数が99人、上ノ国町が125人に対し106人、江差町が133人に対し124人、乙部町が108人に対し87人、奥尻町が83人に対し72人、今金町が90人に対して79人、せたな町が、北檜山、大成、瀬棚の消防団の合計で、225人に対して194人となっております。</p> <p>2点目の消防団員に対する各町の報酬ですが、檜山広域行政組合消防団員の報酬及び費用弁償等に関する条例で管内一律に規定され、年額報酬で団長が8万2,500円、副団長が6万9,000円、分団長が5万500円、副分団長が4万5,500円、部長が3万8,000円、班長が3万7,000円、団員が3万6,500円と定められております。</p>
----------------	--

<p>議 長 浜 塚 議 員</p>	<p>3点目の消防団員の各町の定年基準ですが、厚沢部町、上ノ国町、江差町、乙部町では、団長の定年制はなく、副団長以下で、厚沢部町が65歳、上ノ国町が70歳、江差町が67歳、乙部町が66歳、団員が65歳で、奥尻町、せたな町、今金町の3町は、定年制がありません。</p> <p>4点目の機能別団員の内容ですが、消防団員が全ての災害活動に参加する基本的な消防団制度の補完的な制度として、各自治体が地域の実情に応じて採用できる制度であります。基本団員と同等の活動ができない人が、能力やその事情に応じて特定の活動のみに参加する制度で、消防職員や消防団員のOB、女性等の参加が想定されます。檜山広域行政組合管内では、これまで、この制度を導入した消防団はありません。</p> <p>以上です。</p> <p>3番、浜塚議員 それでは、再質問をさせていただきたいと思います。 まず、1点目でございます。</p> <p>消防団員の定数は、どのような基準で決められるものなんですか。それと、厚沢部町は110人というふうに、定数になっております。条例です。これは、いつ頃決められた定数なんですか。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長 消防団の団員の定数の基準ということでございます。</p> <p>こちらにつきましては、以前、決まる前までは、消防のほうの内部規定がありまして、消防車両の台数ですとか、そういったことで決められていたところではあります。実団員数との開きがかなりあるということもありまして、見直しがされたところでもあります。見直しは、平成30</p>

<p>議 長 浜 塚 議 員</p>	<p>年4月にされたところでありまして。その際、今まで消防車両につきまして、10名ですとか、そういった基準があったわけではあります。管轄する地域の人口ですとか世帯数ですとか、過去のそういった定数の決め合いに依りまして決められてきたところでありまして。こちらにつきましては、檜山広域行政組合の条例の中で、各町の消防団員の団員数の定数は決められておりました。先ほども言いましたとおり、平成30年4月に条例化されて、定数が設定されたところでありまして。</p> <p>以上でございます。</p> <p>3番、浜塚議員</p> <p>2点目でございます。</p> <p>消防団員に対しての実定員数は、檜山7町で見ると、江差町の充足率というんですか、93.2パーセント。厚沢部町は2番目の90パーセントということですが、高いほうですけれども、定員、定数を満たさない要因はどのようなところにあるというふうにお考えでしょうか。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長</p> <p>定員数が110名で99名の団員数ということでございまして、消防署におきましても、リクルート活動といいますか、そういった活動を行って来て、各事業所ですとか、そういうところを回って、団員の参加の呼びかけというところを行っているところではあります。なかなか団員に入られても定着しないといいますか、すぐ辞められる方も多かったですとか、そういったことが、団員基準がこのような状況になっているという状況であります。</p> <p>ただ、今後、これでいいというわけではありませぬので、定員、消防団の参加するように、事業所回りとか、そういったことは、小まめにこれからも行っていきたいというふうに、消防署の</p>

<p>議 長 浜 塚 議 員</p>	<p>ほうには話ししていきたいと思っているところであります。</p> <p>3 番、浜塚議員</p> <p>それでは、2 点目に入りたいと思います。</p> <p>報酬の件です。</p> <p>管内一律に報償について規定されているというようなことになっておりますが、厚沢部町の団員は、この規定を準拠されているんですか。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長</p> <p>消防団の報酬につきましては、令和4年4月1日に改正されまして、それまで若干低いということも言われてきたわけでありまして、結構な増額をしたところでありまして、こちらにつきましては、檜山広域行政組合の条例の中で一律で定めるということになっておりまして、檜山広域行政組合の条例上で、このような金額で規定されているところでありまして、支給につきましては、当然条例で規定されていることであるので、規定どおり支給はされております。</p>
<p>議 長 浜 塚 議 員</p>	<p>3 番、浜塚議員</p> <p>再質問、2 点目でございます。</p> <p>報酬の年額、私思うに、消防団、活動がなければ幸いだと思えます。ただ、団員が、一番低い団員ですね、3 万 6 , 5 0 0 円という報酬ということなんですけれども、これについてはどう思えますか。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長</p> <p>先ほど町長が答弁いたしました内容と申しますのは、報酬の年額でありまして、出動の都度、また報酬も支払われるということでございます。出動につきましては、火災災害活動、1 回を 4</p>

	<p>時間といたしまして、5,000円支払われると。警戒訓練活動では4,000円、会議出席では2,000円という、出動のたびに、そういった報酬の支払いも行われるといったところであり ます。</p>
<p>議 長 浜 塚 議 員</p>	<p>3番、浜塚議員 それでは、3点目に移りたいと思います。</p>
	<p>定年の件ですが、過去5年間、厚沢部消防団の年度ごとの入団及び退団された方は何名ですか。それと、入団者の年齢及び退団者の年齢というのはわかりますか。お知らせ願いたいと思 います。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長 すみません、今、手持ちの資料では、各年度の消防団の加入された方、退団された方とい うのは、ちょっと手持ちでは持ち合わせておりませんので、後ほど御回答したいと思います。</p>
	<p>ただ、実際定年が65歳ということでありまして、ほとんどが65歳をもって退団されるとい う話は聞いております。</p>
<p>議 長 浜 塚 議 員</p>	<p>3番、浜塚議員 退職ですか、これは個人の意思の自由だと思います。ただ、私の聞くところによりますと、定 年延長を望む志のある団員もいると、現役の団員から話を聞いております。消防団員が定数に満 たない現状では、これらの団員の意思を尊重すべく、諸般の事情を考慮して定年を延長するこ とが、団員確保の重要な手段と思われます。定年する人、辞めたくないですね。そこを、定年制 を敷いていない町もあるわけですから、その辺、定年制の見直しについての考えはありますか。</p>
<p>議 長</p>	<p>副町長</p>

副町長	<p>厚沢部町の消防団の定年に関する規定と、内規のようなものではございますが、定年は65歳とするということで規定はされていますが、希望があればといいますか、本人の意思があれば、68歳まで延長することができるということが規定されているわけでございます。ただし、消防団の活動につきましては、危険が伴うということもあります。本人の希望、そのときの体調もありますでしょうし、そういったことを十分考慮しながら、延長については、こういった規定もありますので、もし団員として参加したいということであれば、参加も、そのまま参加させて、68歳までの定年で参加されるということも可能かということは考えております。</p>
議 員 浜 塚 議 員	<p>3番、浜塚議員 それでは、次、4点目の再質問でございます。 答弁によりますと、基本団員と同等の活動ができない人が、能力やその人の事情に応じて特定の活動のみに参加する制度とありましたが、どのようなことが想定、私ちょっと理解できないものですから、具体的にどういうふうなことを指しているのか、説明願いたいと思います。</p>
議 長 副 町 長	<p>副町長 機能別消防団ということでございます。 主には、厚沢部町でいえば、防火婦人クラブとか、そういった女性の活動があるわけですが、そちらは消防団には属しておりませんで、実は消防団の中には、そういった広報活動をする団員だとか、そういった活動ごとに分けている消防団もあるということでもあります。 具体的にどのようなこととありますが、全ての消防団活動に参加する基本消防団という方々がおられるわけですが、何か災害があったときのみ参加するということで、消防署職員のOBですとか、消防団のOBですとか、こちらの消防団のOBといいますと、今、さっきの</p>

	<p>定年の話もありましたが、全国の中には、消防団の定年がまだ低いという、50歳が定年であるという消防団があるようですので、そういった消防団のOBが大規模災害時に後方支援的に活動をするということが想定されているところでございます。</p>
<p>議 長 浜 塚 議 員</p>	<p>3番、浜塚議員 ちょっと、もし仮に機能別団員になったとすれば、定年というのは、これ適用されるものなんですか。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長 もしこういったことが、今後、檜山広域行政組合管内、厚沢部町でも取り入れられるとすると、当然、活動の内容にもよると思います。ただ、基本団員の後方支援的なところを今、考えているとすれば、内容的に、どのような職務の内容かということにもよりますが、ある程度の線引きといいますか、年齢の線引きというのは、正直必要なのかなということは考えております。</p>
<p>議 長 浜 塚 議 員</p>	<p>3番、浜塚議員 4点目ですが、最後の質問とさせていただきます、これが。 消防団員の不足、定数未達成は、簡単に解決できないと思います。分かります。各町それぞれ、日本全国そうだと思います。そこで、町長は、団員不足を解消するにはどのような施策が有効かというふうなことについて、町長の所見を伺いたいと思います。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長 先ほどの答弁の繰り返しにちょっとになってしまうかと思いますが、なかなか劇的に団員の数が回復するという、施策という、やり方というのは、正直ないのかなというふうに感じているところであります。</p>

<p>議 町</p>	<p>ただし、中でも新規加入される方もいるということでありまして、やっぱり消防署、消防団の方々一丸となって、そういった活動の、PRですとか、いろいろな事業所を訪問して、また、小まめなリクルート活動といいますか、団員に参加していただけるような地道な活動が必要かということを考えておりますので、今後とも細かな活動は、リクルート活動はずっと続けていきたいというふうに考えております。</p> <p>町長</p> <p>どうやって団員を確保していくかということでございますけれども、今、副町長が答弁したように、なかなかこれは簡単にはいかないというふうに思います。消防団員という制度でありますけれども、あくまでもボランティア的な感覚だというふうに思っています。</p> <p>ただ、消防団というのは、地域の財産、人、命を守るというような組織だというふうに思いますので、その辺も含めまして、消防署とこれから連携して、団員活動をPRしながら確保に努めていきたい、そういうふうに思います。</p>
<p>議 長</p>	<p>3番、浜塚議員</p> <p>最後に、町長から生の答弁をいただきました。私としては、ちょっと物足りない部分もございます。しかし、今、町長の言葉をそのまま受け止めまして、町長の答弁が実現されることを期待しまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>議 員</p> <p>議 長</p> <p>議 長</p> <p>佐 々 木 議 員</p>	<p>それでは、次に、10番、佐々木宏議員</p> <p>10番、佐々木議員、どうぞ。</p> <p>それでは、令和6年第2回定例会、一般質問に先立ちまして、農業のまち、厚沢部町におかれましては、播種、植付け、田植が終わり、山の新緑に加えて、田んぼ、畑も心休まる緑に染めら</p>

れております。豊かな実りと農業者の収益増に結びつけばなということだと思っていますところでございます。

それでは、質問に入らせていただきます。

誇れるまちづくり継承の手だてはと題しまして、質問いたします。

日本創生会議が2014年に発表した増田レポートで消滅可能性自治体との定義を受け、地方創生やまち・ひと・しごと創生などにより、厚沢部町も総合戦略を策定して、子育て施策の充実や移住・定住、関係人口対策等々を実施してきたところです。

しかし、人口減少の現実を直視したとき、その効果は実感できず、令和4年に有識者らでつくる人口戦略会議が発表した報告書では、全国の4割に当たる744自治体で人口減少が深刻化し、将来消滅する可能性があるとの推計を発表したところです。

道内では、6割超えの117市町村が対象となり、厚沢部町も今回の調査で消滅可能性自治体と名指しされております。未来永劫、単独自治体として存続が危惧される中、次世代に自信と誇りを持って継承するまちづくりの手段が必要であると考えているが、町長の所見を伺うものです。

1つには、人口減の要因として、10年間の自然減の実態と社会減の実態についてです。

2つ目には、若年女性の減少対策はどう考えておられるか。

3つに、子育て世代の環境整備についてです。

4つ目には、関係人口の創出策であります。

5に、雇用、職場づくりに向けた地域運営組織の育成についてであります。

以上、よろしく御答弁をお願いいたします。

議

長

町長

ります。

また、今年度より持家建設奨励金拡充を行っており、今後は、子育て支援住宅の拡充により、定住しやすい環境を整備したいと考えております。

4点目の関係人口の創出策であります。関係人口拡大は、町の経済や担い手という点を含め、重要な施策であります。現在の取組として、中長期間にわたる関係人口創出のため、保育園留学においては、寮の新築など、さらなる拡充に取り組んでおります。

また、令和6年度から、新たな地方創生事業として、官民連携の協議会を設立し、観光振興を図り、経済流入を促す施策展開を図り、関係人口の拡大を図っていく計画としております。

5点目の雇用、職場づくりに向けた地域運営組織の育成についてですが、1つの例では、特定地域づくり事業協同組合制度が想定されます。これは、地域の中で複数の仕事を組み合わせて、年間を通じた雇用を創出し、安定的な雇用環境、一定の給与水準を保ちながら地域の担い手を確保するという制度です。地域の事業者が協同して設立する組合ではありますが、町としても、商工会やJA等に本制度の内容について情報提供を行ってまいります。

最後になりますが、日本全体が人口減少すると推計されている状況であり、厚沢部町も例外ではなく、人口が減少するという想定の下、どのように住み続けられる町を実現するかを目的とし、令和6年度中に第3期の厚沢部町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定します。その中で、少子高齢化、人口減少への対応、力強い農業、林業、商工業、暮らしの安全・安心など、様々な検討を行っていきたいと考えております。

以上であります。

10番、佐々木議員

議

長

佐々木議員	<p>町長は、冒頭の挨拶で、潰れない。潰さない。そういった固い決意で今後も取り組んでいくんだということをおっしゃっていました。答弁の中で、誇れるまちづくりの継承という、そういう手だて、具体的に明示されませんでした。今現在、町長の思う誇れる厚沢部町の点は、どのように考えておられるでしょうか。その点について、よろしくお願いします。</p>
議長 政策推進課長	<p>政策推進課長</p> <p>まず、誇れる町ということは、どういうことなんだということなんだと思います。</p> <p>まず、現在というものがございまして、じゃ、過去がどういう町だったかという、まずひとつ振り返ることが必要なのかなと思います。今までの歴史の中で、例えば1つは、来年度、あっさぶメイクインが100周年を迎える。これはやはり、先人の方々長い期間をかけて厚沢部町農業を守ってきた結果として、やはり大事な誇りなのではないかと。</p> <p>また、地域の中でもいろいろ、林業、商工業などでも、代々守ってきたものがあると。そういったものが一つ一つ、人によっては誇りが違うのかなとは考えますが、そういったものを可能な限り守っていくような手だてというのが、今後、必要になってくるのかとは思っております。</p> <p>また、今後、現在から未来にかけてという形なんですけれども、今、新しい芽が出てきているのではないかと考えております。既に町長の答弁でもありました保育園留学、全国的にもかなり話題になりまして、保育士たちは、世界一のこども園をつくると、そういった誇りを持ちながら、一つ一つ施策をよりよいものにしていって、まちづくりをしていく。これが本当に町の皆さんの誇りになっていくのかなと考えております。</p>
議長	<p>以上です。</p> <p>10番、佐々木議員</p>

<p>佐々木議員</p>	<p>大変大きいくくりの答弁でした。参考にさせていただきます。</p> <p>冒頭、町長の御答弁にもありましたように、消滅が予想される自治体というふうなことで、増田レポートでは、当初896あったよと。そして、このたびの発表では744までに減少しましたよと。その先進事例をひも解いてみますと、やっぱり子育て世帯への対応、そしてまた関係人口の創出、そして受入れ組織がきちっと確立した中で、そういった部分から脱出されているという例がございます。</p> <p>そういった点で、10年間の事業実施検証ということには程遠いんですけれども、1つには、関係人口の創出ということで、以前にも、どういうふうなことで厚沢部町に人を呼び込んでいるんだということでお聞きしたんですけれども、その中で、過疎会社が主体的になって、町内外に移住促進や観光等の情報を発信しているんだということなんですけれども、その辺はどうなんでしょうか。保育園留学との兼ね合いもあるんですけれども、今現在どういった取組というか、流れになっておられるのか、お願いいたします。</p>
<p>議長 政策推進課長</p>	<p>政策推進課長</p> <p>関係人口創出のための素敵な過疎づくり株式会社、その役割ということになってくるのかなとは思ってますけれども、今、御質問にありました具体例の保育園留学につきましては、株式会社キッチハイクがやはり都市部だとかの発信を担って、実際受け入れるときというのは、現地では素敵な過疎づくり株式会社が一手に対応するという形になっておりますので、そういった役割分担のもの、都市部の方のノウハウを生かしながら、素敵な過疎づくりが厚沢部町に来た方に対応して活躍するというような形の、現在、すみ分けになっております。</p> <p>また、移住促進ということも、最初、保育園留学は、移住というよりも短期的な留学という意</p>

	<p>味でやっていたんですけれども、だんだんだんだん、やはり厚沢部町を体験することによって、移住する方というのが少しずつ出始めている状況であります。そういった中で、素敵な過疎づくり株式会社の役割というのは、やはり以前もやったように、定住できるための空き家を探すだとか、そういったコンシェルジュ、案内的な業務を担っていくということで、今後、素敵な過疎づくり株式会社も、保育園留学の受入れだけではなくて、移住という形でコンシェルジュを行っていくという役割が大きくなっていくのかなと考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 町</p>	<p>長 町長</p> <p>今の移住の関係でありますけれども、今、厚沢部町も参加している北海道移住交流促進協議会というのがあります。これは、厚沢部町も含めて全道で150ぐらいの市町村が参加しております。また、そこには、商工会を含め、民間事業も150ぐらい。だから、300ぐらいの団体で組織されております。私も、その会の、今、理事を担当させていただいておりますけれども、令和4年度の移住体験、例えば住宅の利用ということでありまして、これだと、全道で一応実施しているのは107町村ということで、実績ですけれども、圧倒的に釧路市が、夏涼しいということで、釧路市が圧倒的に多くて、1,587件ということであります。その次が厚沢部町であります。これは保育園留学もあるということだと思いますけれども、ぐっと下がるんですが、155件という状況でありますので、少なくとも交流という部分に関しては、全道でも進んでいるほうかなというふうに思っています。ただ、それが移住に直結していないということもありますけれども、地道にこの活動を続けながら、移住につながればなというふうに思っております。</p>
<p>議</p>	<p>長 10番、佐々木議員</p>

佐々木議員	<p>過疎会社という、今日報告書を頂いたんですけれども、そういった中で、受入れの住宅というの、指定管理住宅含め、以前の移住体験住宅という、この実態は、どういうふうな棟数でやっておられるんですか。</p>
議長	<p>政策推進課長</p>
政策推進課長	<p>移住体験住宅の棟数ですが、まず、既に御存じとは思いますが、上里の温泉のところに、基本的に町で建てた4棟がございます。あと、旧上里コミュニティーセンター、そこも移住体験住宅として活用しております。また、民間の住宅は、たしか今2件借り上げていると思いますので、合計7棟を運用している形かとは思っております。</p>
	<p>また、今年、町の所有物ではないんですが、株式会社キッチハイク、こちらは地方創生の補助金のほうを活用しまして2棟建設したんですけれども、実際の受入れ業務というのは素敵な過疎に委託されることとなりますので、素敵な過疎では、今年度につきましては、9棟を運営していく形になるのかなと思います。今現在、2棟建設中ですので、来年度にまた2棟増えた中で業務を行っていく形になるかとは思っております。</p> <p>以上です。</p>
議長	<p>10番、佐々木議員</p>
佐々木議員	<p>創生計画では、令和4年から令和8年まで保育園留学を主体とした協議会というようなことで進むということになっているんですけれども、そういった中で、受入れ体制、発信力、もう一回その辺の整理をお願いします。</p>
	<p>それと、過疎会社の、こういった業務になるのか。あわせて、担当課といいますか、役場との関わりといいますか、窓口、何かしら、農林課もあれば教育関係もあるという、その辺の整理と</p>

<p>議 長 政 策 推 進 課 長</p>	<p>いいですか、その辺どういうふうになっているか、その辺、再度お願いいたします。</p> <p>政策推進課長 ちょっと質問点が多かったので、答弁漏れ等あったら御指摘いただければと思います。</p> <p>まず、保育園留学は、御質問のとおり、令和4年度から令和8年度、5年間を計画期間として現在実施しておりますが、これはあくまで地方創生の交付金を使った計画期間で、その後やらないよというわけではなくて、あくまでこの5年間で重点的に体制整備をしていって、令和9年度以降は自立して行っていくという意味での計画期間と捉えてください。</p> <p>また、受入れ体制につきましては、保育園留学推進協議会というものを形成しておりまして、そこがベースになりまして、そこには関係機関として、もちろん町も入っていますし、素敵な過疎づくり株式会社も入っておりますし、商工会や農協さんとか、農業部門も入っておりまして運営しているので、そこら辺の連携は、きちんと毎年協議会も開催して効果検証もしておりますので、しっかり連携は取れているかとは思いますが。</p> <p>あと、また、実際の保育園留学の受入れの体制ということなんですけれども、ここにつきましては、核となりますのは、やはり認定こども園はぜる、こことの連携は、政策推進課が密に行っておりますし、あとは、素敵な過疎づくり株式会社、キッチハイク、ここは、キッチハイクが受け付けて、素敵な過疎づくり株式会社に、こういう方が保育園留学に来ますよという情報を流して、現地では素敵な過疎づくり株式会社が準備するということで、外への発信、中での受入れということで、きちんとすみ分けをしながら連携を取ってございます。</p> <p>ということで、以上です。</p> <p>10番、佐々木議員</p>
<p>議 長</p>	

<p>佐々木議員 議長</p>	<p>そういう中では、主体的となる役場の担当課は、どういうふうになるんですか。</p> <p>政策推進課長</p>
<p>政策推進課長</p>	<p>もちろん事業全体を所管するという意味では、政策推進課政策推進係が担当しております。ただ、政策推進係だけでできる事業でもございませんので、きちんと協議会をつくって運営させていただいているという形でございます。</p>
<p>議長</p>	<p>以上です。</p>
<p>佐々木議員</p>	<p>10番、佐々木議員</p>
<p>佐々木議員</p>	<p>保育園留学について、大ざっぱですけれども、なるほどなというふうに、理解に近いものが得られました。</p>
<p>議長</p>	<p>それで、創生の中で、農業分野、やっぱり主体となるのは農業分野なんですけれども、保育園留学では定住に結びついているという部分はあるんですけれども、これについても、以前の一般質問の中で、農業分野については、マイナビと連携して農業ポータルサイトを運営した中で、就農、移住を促進したいということで、令和2年から令和4年の3年間実施されております。これについての、農に生きる推進協議会、この3年間の実績というのは、どういうふうになっておられるのでしょうか。</p>
<p>議長</p>	<p>政策推進課長</p>
<p>政策推進課長</p>	<p>令和2年度から令和4年度に取り組みました農に生きる創生事業についての御質問であります。</p>
<p>議長</p>	<p>私、答弁の後に、ちょっと不足ありましたら、農林課長のほうからまた補足があるかと思いますが、総体的なことは、まず答弁させていただきますと、この事業の中で行ったものにつきまし</p>

	<p>ては、一番大きなものでは、アスパラハウスの自動かん水装置の導入と、これが一番大きくウェートを占めております。</p> <p>また、御質問にあったとおり、マイナビさんなんかも絡みまして、新規就農を促進するという事業、また、やっぱり、あっさぶメイクインのブランド化ということで、この事業の中で、あっさぶメイクインの発信、商標登録、またギネスへの挑戦ということを行った4年間ございました。</p> <p>総括しますと、目標としていたことは一通り、農に生きる推進協議会、全て達成できたのかなとは思っておりますが、新規就農につきましては、この3年間で終わるものではなく、今後また、担い手協議会というものが現在も活動を続けておりますので、その中で続いていくものだと認識しております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 佐々木議員</p>	<p>10番、佐々木議員</p> <p>もう一つには、前町長は、新たな取組ということで、大変いろんな施策が打ち出されました。今現在、脱炭素社会というふうなことで、北海道、日本を含め、GX、洋上風力、水素生成とかと、そういうふうな事業がありますけれども、その後、前町長に引き継いで、その辺の取組といった実態は、どういうふうな状況になっておられるのでしょうか。</p>
<p>議 長 政策推進課長</p>	<p>政策推進課長</p> <p>前町長からの引継ぎということで、御紹介程度にはなってしまうのかもしれませんが、まず、ゼロカーボン、前町長の時代に、ちょっと少し動きが出てきたということで、厚沢部町もゼロカーボンということで宣言をしております。今年度、今、具体的に、この後の議員協議会で御説明</p>

議長
佐々木議員

しようとは思ったんですが、ゼロカーボンモビリティ事業という、公用車を電気自動車に切り替えるなど、そういったことを現在、具体的な、そろそろ施策に入っていくことを検討しておりますので、そういったことで、後ほど、まだ事業としては確定ではないんですけども、現在の検討段階を後ほどお知らせしたいと考えております。

また、脱炭素につきましては、株式会社ハチャム、そちらのほうを設立しまして、今後そこをどう動かしていくかということも、これからやっていかなきゃいけないところとなっております。ただ、いずれにしてもゼロカーボンという動きは、きちんとうまく使えば、町の経済発展にもつながりますし、負担の軽減にもつながるということで、町長が替わったとしても、有効に使えるものは、きちんと有効に使っていきたいと考えております。

ごめんなさい、ちょっと追加で、あと、前町長が進めていた中で、道営住宅という点でも、そこでもエネルギーを削減しながらということで検討はしておりますので、まだ事業決定はしていないんですけども、そういった検討をしつつ、実現に向けて動いている段階と捉えていただいて結構だと思います。

10番、佐々木議員

分かりました。具体的に財政豊かになる取組というのは、なかなか見えてこない実態だなというふうに理解したところです。

それで、最後のほうになるんですけども、5点目の職場環境づくりと、こういった部分についてであります。

1つには、今、指定管理住宅とか体験住宅を活用して、それぞれリモートというか、そういうことで、移住者というか、交流人口が来ておりますけれども、もう一つには、2地域居住を考え

<p>議 長 政策推進課長</p>	<p>たときに、多様な生活様式を実現するためには、サテライトオフィスの拠点整備というものも取り組んでいく部分が大事でないかなというふうに考えるところです。そういった部分で、道の駅が改修があるというような部分、そういう拠点整備を盛り込んだ中の考えというのは、どうなんでしょうかね。</p> <p>政策推進課長</p> <p>道の駅の改修、改築につきましても、現在、地方創生の事業の中で検討させていただいて、今、基本設計の契約が終わったところですので、これから具体的な中身を詰めていく段階となっております。その中で、基本的な考えとしまして、その道の駅の中にサテライトオフィスを設置するという事は考えてはいないんですが、やはり雇用とか仕事の創出という意味で、今もテナントが、道の駅、2件あるんですけども、そういったところの拡充というものをひとつ考えていきたいとは思っております。</p> <p>また、確かに御質問の仕事づくりというのは、非常に町の経済にとって重要なところございまして、質問にもありましたリモートでの仕事での移住だとか2地域居住、こういったことも今後強化していきたいとは考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 佐々木議員</p>	<p>10番、佐々木議員</p> <p>明快な答弁じゃないですけども、何とか、その辺を織り込むような考えも盛り込んで、国も今、デジタル化社会で財源的な部分も取り入れ可能な部分も聞こえてきておりますので、考えていただければというふうに思います。</p> <p>それと、もう一つは、地域運営組織というのと、やっぱり厚沢部町に住みたいという、緑豊かな</p>

<p>議 長 政 策 推 進 課 長</p>	<p>厚沢部町ということなんですけれども、問題は、働く環境がないと、なかなか住むことにはつながらないという部分がございます。それで、地域づくり事業協同組合制度、この制度はもう申し上げるまでもなく、安定的な雇用環境と一定の給与水準を確保した職場づくりが可能だということで、御答弁では、情報提供を行ってまいりますよということです。</p> <p>以前の質問では、そういう、町内で事業者の機運が盛り上がったなら、そういった説明会をやりますよという答弁なんですけれども、その辺、情報発信でなく、1歩も2歩も前に進むような手だてというのは、どうなんですかね。できないんですか。</p> <p>政策推進課長</p> <p>まず、特定地域づくり事業協同組合制度というものについてですが、こちらのほうは、確かに安定した雇用を確保するという意味では有効な手だて、御質問のとおりだと思います。ただ、やはりマルチワーカー的に働く、1人が複数の仕事をするということで、例えば、夏の仕事がたくさんあっても、この事業は成り立たないと。あくまでいろんな季節にいろんな仕事があって初めて成り立つということで、多様な事業者が参加して初めて成立するものかなと思いますので、そういった形で、いろんな事業者さんの状況等を踏まえながら、事業者さんが参加意向があるのであれば、事業組合が成立するのかなとは考えておりますので、もうちょっと時間がかかる制度なのかなとも思っております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 佐 々 木 議 員</p>	<p>10番、佐々木議員</p> <p>町内、農業分野を含め、各事業者は人材確保ということで大変苦勞しているのが実態であります。それぞれ、やっぱり事業者に対しましても、意識向上に向けた、醸成の取組というものも積</p>

<p>議 町</p> <p>長 長</p>	<p>極的に執り進めてほしいなというのが1つと、管内といいますか、渡島半島では先進的に成功している事例もありますので、そういった部分も勉強しながら取り組んでいただければなというふうに思うものであります。</p> <p>私、総括ということで、厚沢部町はこの10年、日本版のCCRC構想ということで国会でも取り上げられて、大変すごい例だということで、保育園留学もそうなんですけれども、先進的な取組は必要だけれども、なかなかいい結果に結びついていないのが実態であります。そういった部分で、そういった、うまくいかなかったんだけれども、保育園留学に結びついてきたという部分がございます。そしてまた、本事業を活用して、明日の日本を担う中学生等においては、公営塾開設によりまして、都市部との格差のない学習環境で育んだ多様で豊富な知識を携え、厚沢部町の新しい力となるというようなことを私、希望と期待しております。</p> <p>そういった中で、公営塾に対して、町長、郷土愛教育と。一旦は出るんだけれども、厚沢部町に帰って頑張るよという、そういった部分の取組も必要でないかと思うんですけれども、いかがなものでしょうか。</p> <p>町長</p> <p>公営塾で郷土愛という話でありますけれども、何となく私としては違うんじゃないかなというふうに思っている。郷土愛は当然小さい頃から、家庭環境だったり、あるいは小学校、中学校で厚沢部町の魅力を伝えていける、そういう環境をつくっていくのは大事だと思っています。公営塾は、あくまでも基本は学力向上ということにつながっていくんだろうなと思っていますけれども、公営塾でふるさとがすばらしいということを教えるということには、なかなか結びつかないかと思っておりますけれども、当然、人口減少、そして、さっきも、最初の答弁でもお答えしました</p>
-------------------------------	---

<p>議 長</p>	<p>けれども、都会へ出ていく子供たちがほとんどだということですが、今、佐々木議員が言ったように、郷土愛を持って、また厚沢部町に戻ってきて、また活躍していただける、そういう人を、人材をつくっていくような施策をこれからも展開していきたいというふうに思っております。</p> <p>町長、佐々木議員が一応聞きたいのは、もう少し具体的な雇用、職場づくりというふうなことをもうちょっと具体性を持った答弁が聞きたいと。あくまでも、保育園留学はもう分かりました。例えば厚沢部町でこれから、今のところやっているのは、大学生なんかの農業支援ですが、そういうふうなものを今後どういうふうに進めていくのかも含めて、厚沢部町に関係人口の拡大をする具体的な施策をどのように推進するかと、もうちょっと具体性のある答弁をお願いしたいと思います。</p>
<p>議 長 農 林 課 長</p>	<p>農林課長</p> <p>まず、それでは、特定地域づくり事業協同組合制度ですとか、2地域居住の促進ということで御質問ありました。</p> <p>農林分野からのお答えといたしましては、昨日、食料・農業・農村基本法、これ25年ぶりに改正されました。その基本法の中では、2地域居住を促進するですとか、多様な農業を中心とした雇用の創出に努めるというようなものが、法の中で明示されたところであります。まだ法改正されたというところでありまして、今後、それに基づいた国の施策、こういったものがこれから出てくるのかなと思っております。そういったものを国の施策と絡めまして、厚沢部町でどのような雇用の確保、また創出ができるのか、これについては、法改正を踏まえた今後の国の施策等を見極めながら、協議して検討してまいりたいというふうに現時点では考えております。</p>

<p>議 長 佐々木議員</p>	<p>以上です。</p> <p>10番、佐々木議員 検討を具体的な施策で進めていただきたいというふうに思うところであります。</p> <p>町長は、潰れない、潰さないまちづくりをきちっとやっていくんだよ。住み続けられる町をつくっていくよということなんですけれども、厚沢部町、各種事業、本当に精力的にやっていますけれども、これの元となる財源確保は、きちっと手だてしていかないと、今まで以上の事業ができないというのが目に見えているところなんですけれども、それで、私、考えるんですけれども、今後の創生計画でも、オートキャンプ場を含め、いろいろ交流施設がありますよね。そういった部分について、民間委託といたしますか、そういうふうな考えを持ってないものかなというふうに、素直に思うところがあります。1つには、大きな企業、そしてまた学校法人に運営、管理、維持、そういったものを委託した中で執り進めるといった、町長セールスで取組する考えはいかがでしょうか。</p>
<p>議 長 政策推進課長</p>	<p>政策推進課長</p> <p>財源の問題ということで、確かに財源って、町を持続させる。行政サービスを持続させる。住民生活を豊かにするという意味では、非常に大事な論点であります。それで、具体的にキャンプ場というお話が出ましたので、こちらの点を踏まえますと、確かに現在、例えば指定管理とかでどこかの事業者さんが入ってくれば、一番運営はしやすいのかなという考えはありますが、現在の実績では、なかなか受けるところはないのかなと考えております。</p> <p>まずは、今年度から経営コンサルを入れまして、また、インターネット予約等を開始しまして、まずはどれくらい施設が使われるかというのをきちんと検証しながら、将来的にはそういっ</p>

議 長	<p>た手だても検討が必要かとは思っております。</p> <p>以上です。</p> <p>10番、佐々木議員</p>
議 員 佐々木議員	<p>指定管理でも町の財源、持ち出しが出るんですよ。そこを端的にすばっとカットするという部分の考えも大事ではないかなというふうに思うところで、提言してございます。厚沢部町、この10年間、人口は少なくなりましたけれども、誇れる部分も育ってきております。今、芽が出て、葉っぱが出て、花開いて実がつくまでは、まだまだ、先進地の取組を見ても、5年や10年では成果が得られない部分であります。20年、30年かかるんだらうなというふうな部分で、いい取組になっているなというふうに考えております。</p> <p>そういった部分で、厚沢部町は、基幹、農業を含め、林業を主体的に、そしてまた人材育成に集中的に施策を進めるといった部分で、あと、オートキャンプ場、うずら温泉を含めて、そういうふうな部分は、きちっと、財源の持ち出しをいかにカットした中で取り組むかという部分でいかないと、潰さない、潰れない町にするとはいったものの、財源が伴った部分では、困難さがあるだらうなというふうに思うところであります。誇れる部分が、葉っぱが開いて実が出てきております。こういった部分で、より一層、町長を先頭に、部局の役職員、皆さん頑張っていたきたいということを申し添えまして、私の一般質問を終わるところであります。</p> <p>終わります。</p>
議 長 議 長 議 長	<p>議事の途中ではありますが、11時25分まで休憩します。(11:15)</p> <p>休憩前に引き続き議事を続行いたします。(11:25)</p> <p>それでは、一般質問の通告は以上であります。</p>

議	長	これをもって一般質問を終結します。
議	長	これより議事に入ります。
議	長	日程第6 議案第1号令和6年度厚沢部町一般会計補正予算、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	総務財政課長
議	長	議案第1号の令和6年度厚沢部町一般会計補正予算（第2号）の内容について説明いたします。（議案内容説明記載省略）
議	長	説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。
議	長	歳入全般について質疑ありませんか。ページ数は5ページから8ページまでです。（発言する声なし）
議	長	それでは、次に、歳出の質疑に入ります。
議	長	歳出は款ごとに行います。
議	長	最初に、2款総務費について、ページ数は9ページから10ページまでです。
議	長	5番、香川議員
議	員	9ページになります。
		2款の15目の子育て支援ギフト開発に伴う地域力向上プロジェクト業務委託料とあります。
		それで、資料ナンバー1に、事業名として、地方創生SDGs問題解決モデル都市支援事業と、すごく難しい事業内容を書いています。事業内容の説明を見ると、創生SDGsの経験や知見のある人材を活用しとあるわけですけれども、なかなかこの文面を見ただけでは、どういう人材がこの事業に当たるかって分かりにくいものですから、その具体的な説明をお願いします。

<p>議 長 政策推進課長</p>	<p>政策推進課長</p> <p>まず、ちょっと名前が難しくて長ったらしくて、事業のイメージが難しいのかと思いますが、まず、専門家ということで、どういう人材を活用するのかという点で、結論から申し上げますと、株式会社キッチンハイクの山本代表が、国のほうで、内閣府地方創生SDGs課題解決モデルの専門ということで就任しておりますので、キッチンハイクの代表と連携を取りながら事業を行っていくというような形になります。</p> <p>また、ちょっと事業名につきましては、一応国の事業名がこういったことで、こういった名前をつけさせていただいているんですが、SDGsというのは持続可能な社会ということで、今後、社会としての持続性を高めるようなものを地方創生の中でやっていくというような文脈でございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 香川議員</p>	<p>5番、香川議員</p> <p>その人材、キッチンハイクの山本代表だということは分かりました。</p> <p>そして、その中で、事業内容として、今回、子育て世帯への町産米を配布、300世帯に送るとい、そういう事業を今回この事業の中で行うという話ですけれども、その下に専門家の派遣と書いてあるんですけれども、それはちょっとこの文章を見ただけだと、どう派遣するのかちょっと理解できないので、その辺の具体的な説明もお願いします。</p>
<p>議 長 政策推進課長</p>	<p>政策推進課長</p> <p>専門家の派遣という意味なんですけれども、山本代表につきましては、既に厚沢部町にキッチンハイクの支社を持って、厚沢部町に在住しておりますので、キッチンハイク社から派遣されるんで</p>

<p>議 長 香 川 議 員</p> <p>議 長 政 策 推 進 課 長</p>	<p>すけれども、町内にいるということになりますので、民間会社から派遣していただくという意味で、こういう形になっております。</p> <p>この専門家の派遣というのがこの事業の採択の条件になりますので、実は山本代表のほうも、専門家に就任したときに、やはり新しい事業なんでもどこかでやりたいということで、やはり第1弾は株式会社キッチハイクとしても厚沢部町で事業展開をしたいということで、今回、事業採択されたものを予算計上させていただきました。</p> <p>以上です。</p> <p>5番、香川議員</p> <p>それでは、この事業なんですけれども、実際、事業期間として単年で終わるものか、あるいは複数年行うものか。あと、今回は町産米を配布というプロジェクトを行うと。来年度以降は、プロジェクトの内容を変えてこの事業を進めていくのか、その辺について説明をお願いします。</p> <p>政策推進課長</p> <p>まず、事業が単年か複数年かということですがけれども、こちらの事業は、あくまで単年の下の採択になりますので、現状では単年度と考えております。</p> <p>また、町産米ということで、次年度以降の計画は今ないので、やり方を変えていくという考えとかも今、整理はしていないんですが、町産米を選んだという理由につきましては、やはりお米ですから、生野菜と違って、配りやすさだとか、悪くならないということもあるんですけれども、あくまで子育て世帯へのギフトという意味も込めて、お米を選ばせていただいたということでございます。</p> <p>以上です。</p>
---	--

<p>議 長 議 長 議 長 高 田 議 員</p>	<p>ほかに2款総務費について質疑ありませんか。（発言する声なし） それでは、次に、3款民生費について質疑ありませんか。ページ数は11ページです。 2番、高田議員</p>
<p>高 田 議 員</p>	<p>項目は2つなんですけれども、両方とも確認したいんですが、まずは定額減税の補足給付金の給付事業で、説明資料を見ますと、物価高から暮らしを守って、デフレ脱却に向けて、一時的な措置として1人当たり云々とあります。その後に、減税し切れないと見込まれる人、この内容、どのような方がこれに該当するのかというところの説明をお願いします。</p>
<p>議 長 住 民 税 務 課 長</p>	<p>住民税務課長 減税し切れない方の内容とありますけれども、定額減税は、所得税が1人当たり3万円、住民税が1人当たり1万円、計4万円の定額減税となっております。今まさに町民税の発付が行われておりまして、その中で、減税されていない方には給付という形で、給付されます。所得税に關しましては、令和5年度の収入でもって所得税を計算して、その分で1人当たり3万円、扶養がいれば人数に応じて掛ける3万円ということになりますので、それでも減税されない方に、給付という形で、給付される人たちが、この減税し切れないと見込まれる方となります。 以上です。</p>
<p>議 長 総 務 財 政 課 長</p>	<p>総務財政課長 単純に言いますと、サラリーマンですと、給料から町民税と所得税と引かれるんですけども、それが減税されないで12月までいくんですけれども、最後まで引き切れない、先ほど住民税務課長が言った3万円と4万円、所得税3万円と住民税1万円の減税額、これまで達しない場合、給料から天引きして行って減税が全て完了しない人に対して給付するという、それが減税し</p>

<p>議長 高田議員</p>	<p>切れない人ということになります。</p> <p>2番、高田議員 今のは分かりました。</p> <p>その後の、あっさぶ荘のやまぶき浴室改修事業のところ、今回、座浴というふうにあるんですが、まず1つは、今までの入浴がどういう形でやられていたのかということ、座浴に該当するという方が、どういう人数になっていて、座浴が必要になってきた意味というか、その説明をお願いします。</p>
<p>議長 保健福祉課長</p>	<p>保健福祉課長</p> <p>やまぶきを造った当初は、まだ特別養護老人ホーム入所者の方たちが、要介護1以上の方たちが入所できるという状況だったんですけども、法改正によって、要介護3以上の方というふうに変ったことによって、やまぶきを建てた当初は、自分で歩いてというか、普通のお風呂に入れるような状況の人たちも入所者として考えていたんですけども、要介護3以上になったことで、ほとんどの方が車椅子の状況になってしまいますので、それで、造った当初の浴槽ではちょっと入浴ができなくなってしまったという現状にあって、今は、デイサービスのほうにある座浴のお風呂を使って入所者の方たちが入っているという現状になっているので、それで今回、入所している方たちもちゃんと施設のほうでの座浴に入ってもらえるようにということで、改修ということで希望されてきました。</p> <p>以上です。</p>
<p>議長 議長</p>	<p>ほかに3款民生費について質疑ありませんか。（発言する声なし）</p> <p>それでは、次に、4款衛生費について質疑ありませんか。ページ数は12ページです。（発言</p>

議 長	<p>する声なし)</p> <p>それでは、次に、6 款農林水産業費について質疑ありませんか。ページ数は13 ページから14 ページまでです。(発言する声なし)</p>
議 長	<p>それでは、次に、7 款商工費について質疑ありませんか。ページ数は15 ページです。</p>
高 田 議 員	<p>2 番、高田議員</p> <p>内容としては、観光費で函館空港のアクセス改善プラットフォーム負担金ということで出ております。これ、実は議員協議会である程度説明を受けたんですが、これの内容について御説明をお願いします。</p>
議 長 政 策 推 進 課 長	<p>政策推進課長</p> <p>資料ナンバー1を御参照ください。それを基に説明させていただきます。</p> <p>まず、このプラットフォームの負担金というのは、まず檜山エリア3町と函館空港の公共交通アクセス時間を短縮して、観光客や帰省客の利便性を高めるということで事業を行う、今年度については実証実験という位置づけで考えております。ここに参画している団体ですが、運行主体としましては函館タクシー株式会社で、参画団体としましては厚沢部町、江差町、上ノ国町、檜山振興局、北海道エアポート株式会社ということで、参画してこの事業を行っていくということになります。</p> <p>実際の実証実験の運行時期ですが、イベント等が始まる7月から帰省時期の1月までということで、年間33日間を運行するような形で、実際の運行形態につきましては、10人乗りのワゴン車2台を準備いたしまして、それを往復させながら、1日合計7便ですか、そちらのほうを運行するような形で想定しております。</p>

	<p>また、事業費につきましては、基本的には国の補助金を申請しまして、あとは、運行の、実際乗った人にお金を頂いて運行するんですが、その不足分ということで、3町でそれぞれ同等の負担をするということで事業を行う予定でございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>議長 高田議員</p>	<p>2番、高田議員</p> <p>各地域で担当する、負担するというのは分かるんですけども、利用する人が当然その分だけ負担金を払うことになりますよね。利用料を払うことになる。その利用料の分の不足分というよりは、実際の料金を安くするために負担金を使うのか、それとも、現実として会社の運営そのものをするために必要だから負担金が必要だということなのか、その辺の説明です。</p>
<p>議長 政策推進課長</p>	<p>政策推進課長</p> <p>まず、今年度につきましては実証実験ということで考えておりまして、この実証実験段階で、要するに車両を整備するだとか体制を整備するというので、あくまで利用者の負担を軽減するという意味ではなくて、その体制整備に係る負担金と考えていただいて結構です。</p> <p>以上です。</p>
<p>議長 香川議員</p>	<p>5番、香川議員</p> <p>同じ空港アクセスの部分なんですけれども、今回、時期として7月から1月のうち33日間と、もう日数が限られているわけなんですけれども、結局、イベントや帰省時とはあるんですけども、要は、常に利用したい人が使えるわけではなくて、あくまでもある程度のイベントがあったときのみ使えるという捉えでいいのか、その辺の説明をお願いします。</p>
<p>議長</p>	<p>政策推進課長</p>

<p>政策推進課長</p>	<p>まず、この事業の出だしということで、やはり、まず入り口としましては、イベントとか帰省のときに、やはり函館空港からのアクセスというのが非常に不便だったりということが入り口になっていますので、今年度の実証実験につきましては、やはりそこに特化して運行して、どれくらい利用していただけるかということにはなります。</p> <p>ただ、運行、実証実験の結果によって、これが例えば運行形態として自立してできるというのであれば、車両はあるんですから運行はできるということにはなってきますので、実証実験の結果次第とは考えております。</p> <p>ただ、うちの町も負担金を出す以上、やはり有効に使いたいのので、今回厚沢部町のバス停については、うずら温泉と道の駅ということで設定しました。うずら温泉は、例えば東京から来るときに、うずら温泉への直通というアクセスがありませんので、そういったことが実現すると、宿泊客の確保とかにつながる可能性もありますので、そこは推移を見ながら、ちょっと検討していきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 香 川 議 員</p>	<p>5 番、香川議員</p> <p>それでは、その説明にのっとって、今年度、実証実験の段階だとは思いますが、実際、厚沢部町の帰省される方が使えるというのは、利用できるというのは、どういうイベント、もしくは、どういう帰省時に利用できるのか、その辺の説明を願います。</p>
<p>議 長 政策推進課長</p>	<p>政策推進課長</p> <p>運行日につきましては、各町のイベントだとか、帰省する、例えば年末年始という期間と設定していますが、予約の際に、例えばイベントに参加してくださいとか帰省で使ってくださいと条</p>

	<p>件がつくわけではございませんので、運行日で、正直早い者勝ちにはなってしまいうんですけれども、予約すれば使えるという単純なものになると思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長</p>	<p>香川議員が一応聞いているのは、厚沢部町内でどのようなイベントに利用することになるのかと。</p>
<p>政策推進課長</p>	<p>厚沢部町内であれば、例えば今年度であれば、7月20日に夏まつりがありますよとかという日には、既に運行は設定しております。例えば江差のお祭りとか各町のイベントに合わせた運行日程というのを設定済みでございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 香川議員</p>	<p>5番、香川議員</p> <p>夏まつりとか、そういうときに利用できるという話なんですけれども、例えば7月から1月までの期間であれば、当然お盆、そして正月もその期間内にあるわけじゃないですか。そういうお盆、正月というのは、恐らく町外に出られた厚沢部町出身の方も一番帰る時期だと思うんですけれども、そういうときも利用できるのか、最後になるんで、説明をお願いします。</p>
<p>議 長 政策推進課長</p>	<p>政策推進課長</p> <p>まず、お盆とか年末年始の帰省ということでございますが、今、予定表ではありますが、実際の運行カレンダーがございまして、お示しはしていないので、ちょっと具体的な日程を言いたいと思います。</p> <p>8月につきましては、8月、例えば2日、3日、4日、5日ということで、土日を挟んで4日間運行するだとか、その後は、8月8日から19日までは毎日運行するとかというふうに、お盆</p>

	<p>時期の帰省に対応すると。また、12月、年末につきましては、12月28日から31日まで。そして、1月につきましては、1月3日から6日までというような運行予定になっておりますので、十分帰省等にも対応できると考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 議 長</p>	<p>ほかに7款商工費について質問ありませんか。（発言する声なし）</p> <p>それでは、次に、10款教育費について質問ありませんか。ページ数は16ページから18ページまでです。</p>
<p>議 長 中山議員</p>	<p>1番、中山議員</p> <p>16ページになるんですけども、ここに義務教育学校の整備検討委員会と、もう一つ、報償費と委託料がありますけれども、検討委員会の、何名ぐらいでどのような人たちが検討委員会に入るのか、その辺についてと、もう一つは、ある程度今までも、義務教育学校については基本的にはできていると思うんですけども、総額何年ぐらいを予定した中で学校の設立になるのか、それについてのたまかな今後のスケジュールをお知らせ願いたいと思います。</p>
<p>議 長 教育委員会 事務局 長</p>	<p>教育委員会事務局長</p> <p>まず、1点目の義務教育学校の整備検討委員会の委員のメンバーということでございます。こちらについては、設置要綱を制定いたします。今予定しているのは、大体20名程度を予定しております。具体的には、各学校で今、コミュニティースクールを設定しておりますけれども、その委員の代表の方、それから小学校、中学校の教員、そして、こども園、小学校、中学校の保護者にも入ってもらおうと思っております。それから、町として非常に大きい事業になりますので、町の関係者、財政部門ですとか政策部門との連携をしながらということになりますので、そう</p>

	<p>いった方にもメンバーに加わっていただいて検討しようというふうに考えております。大体20名程度を予定しております。</p> <p>それから、2点目の今後のスケジュールということでございます。</p> <p>3月の議会でも少しお話しさせていただきました。町としては、まず令和10年度を目指すということで考えております。ですので、今年度中に、まず基本方針、どういった学校をつくりたいのかというところ、そこについて、ある程度固めていきたいというふうに考えております。そして、来年度以降、基本設計ですとか実施設計に入っていく。そして、令和8年度ぐらいから、順調に進めばということでもありますけれども、建設工事に入っていくと、令和10年度を目指したいというふうには考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 中山 議員</p>	<p>1 番、中山議員</p>
<p>議 長 教育委員会 事務局 長</p>	<p>この件については、もうかれこれ、かなり検討してきたはずなんですけれども、そういう中で、現状分析と、それから課題抽出というような重要なポイントがあるんですけれども、この辺についても、このメンバーで全部取り上げて解決するのか。そして、一番大きいのは、これからどう子供たちが、数値的になってくるのかというのが、大変厳しい分析になるんでないかなと思うんですけれども、その辺についての教育委員会としての考え方を聞きたいと思います。</p> <p>教育委員会事務局 長</p> <p>基本方針の策定に当たってということでございますけれども、もちろん検討委員の中で検討していきますけれども、支援業務という中で、教育に関して専門的な知識を有する方の支援を受けながら、いろんな情報提供、今後の学校づくりですとか、学校のICT化ですとか、そういった</p>

<p>議 長 中山 議員</p>	<p>部分についていろいろ助言を受けながら、基本方針を策定していきたいというふうに考えております。</p> <p>また、子供の数もかなり少なくなっている、5年後、6年後には1桁の子供しか入学してこないというような状況がございますので、そういった今後の推計も見ながら、どれぐらいの規模の学校にしていくのかということも考えていきたいというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>1番、中山議員</p> <p>分かりました、大体。委託するというので、今の20名の方である程度、協議内容というのが我々にも、この後説明があると思えますけれども、一番、私が思うには、大事なものは、場所的なものが、当町としての学校の設置について、今の、基本的に教育委員会として、どこを、やはりこれが一番大事だと思うんですけども、場所的な、設置場所についての大きな基本的な考え方というのを持っていると思うんですけども、その辺についてはいかがですか。</p>
<p>議 長 教育委員会 事務局 長</p>	<p>教育委員会事務局長</p> <p>場所の選定でございます。</p> <p>基本方針の中で、建設場所をどうするかということも検討していきます。場所については、もちろんいろいろ意見を聞きながらということになりますが、子供たちの移動ですとか、いろんな社会施設との連携だとか、そういった、もろもろの公共施設等のことも考えながら進めていくというふうに思っております。具体的な場所については、検討委員の皆さんの意見を聞きながら決めていきたいというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>

議	長	ほかに10款教育費について質疑ありませんか。ページ数は16ページから18ページまでです。
議	長	7番
山	田	16ページの一番下の鶉小学校の閉校に伴う補助金についての質問であります。
議	員	鶉小学校閉校に当たって、40万円という、こういう、資料ナンバー4にも載っていますが、40万円という積算というのは、どのような感じで出したのか、ちょっとそれを1つ知りたいのと、前にも閉校になった学校もこの金額なのか、ちょっとその辺を。
議	長	教育委員会事務局長
教	育	鶉小学校の閉校に関する補助金の40万円ということでございます。
委	員	こちらの内容については、閉校記念誌の作成代というのがほとんどになります。そのほか、郵
会	長	送ですとか雑費という形での40万円となっております。また、過去の閉校した学校の補助金に
事	務	ついて、過去しばらく見ますと、40万円の補助金を支出しているという状況です。
局	長	以上です。
議	長	7番、山田議員
山	田	今後、館小学校も近い将来、閉校というふうなことになると思うんですが、ということは、同
議	員	じ金額で、例えばこういう飲食を伴う、例えば祝賀会がありますね。そういうことに対する、こ
議	長	ういう補助金とか助成金というのは発生しないものなんでしょうか。
教	育	教育委員会事務局長
委	員	館小学校の統廃合については、まだ検討段階ということでございますけれども、どのような閉
会	長	校事業を実施していくのかということでも補助金の額は変わってくるのかなというふうに思っ
事	務	て
局	長	

		<p>おります。今回の鶉小学校の場合ですと、閉校記念事業としては、記念誌の作成ですとか、あとは閉校式典ですね、そういった形になります。閉校式典後のいわゆる思い出を語る会というような飲食を伴うものについては、実施しないという予定でおります。</p> <p>ただ、各学校、地域の考え方によって、そういった催しをするという場合もございます。ただ、過去の経緯を見ますと、飲食を伴う思い出を語る会等については会費制ということになっておりまして、その部分については、補助金は支出はしておりませんでした。</p> <p>以上です。</p>
議	長	ほかに10款教育費について質疑ありませんか。（発言する声なし）
議	長	それでは、質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（発言する声なし）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第1号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第1号令和6年度厚沢部町一般会計補正予算、原案どおり可決されました。
議	長	議事の途中であります、休憩して昼食といたします。
議	長	午後は1時から再開いたします。（12：00）
議	長	午前中に引き続き議事を続行いたします。（13：00）
議	長	日程第7 議案第2号厚沢部町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。

議	長	保健福祉課長
保 健 福 祉 課 長		議案第2号の厚沢部町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について御説明いたします。（議案内容説明記載省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。（発言する声なし）
議	長	それでは、質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（発言する声なし）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第2号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第2号厚沢部町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、原案どおり可決されました。
議	長	日程第8、議案第3号厚沢部町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	保健福祉課長
保 健 福 祉 課 長		議案第3号の厚沢部町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について御説明いたします。（議案内容説明記載省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。（発言する声なし）
議	長	質疑を終結します。

議	長	討論に入ります。（発言する声なし）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第3号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第3号厚沢部町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、原案どおり可決されました。
議	長	日程第9、議案第4号厚沢部町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	病院事務長
国保病院事務	長	議案第4号の厚沢部町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について御説明いたします。（議案内容説明記載省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。（発言する声なし）
議	長	質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（発言する声なし）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第4号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第4号厚沢部町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、原案どおり可決されました。
議	長	日程第10 議案第5号厚沢部町いじめの防止等に関する条例の制定について、議題としま

議	長	す。
議	長	議案の説明を求めます。
教 育 委 員 会	長	教育委員会事務局長
事 務 局 長	長	議案第5号の厚沢部町いじめの防止等に関する条例の制定について御説明いたします。（議案内容説明記載省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。
議	長	1番、中山議員
中 山 議 員	長	参考までにお聞きしたいんですけども、当町における教育委員会で認知しているいじめ、そして不登校という実態は、現況、当町ではあり得ないというふうに理解してよろしいですか。
議	長	教育委員会事務局長
教 育 委 員 会	長	毎年行っている道教委が実施しているアンケート調査でございます。学校で定期的に行われて
事 務 局 長	長	おります。その結果について、まずお知らせいたします。
		<p>いじめの認知件数としては、令和5年度で町内で9件、それから、令和6年度、これまだ途中でありますけれども、1回目の調査では、町内で12件ということになっております。具体的な内容としましては、項目の中で、「悪口を言われる」ですとか「嫌なことを言われる」というような内容になっております。学校において、こういったアンケート調査が出た場合には、子供たちからの聞き取りですとか、あと、保護者からの聞き取りを行って対応しているということでございます。いずれのケースも早期解消に努めておりまして、いじめのケースが長引いていると、そういったことはないというふうに聞いております。</p>
		以上です。

<p>議 長 中山 議員</p>	<p>1 番、中山議員</p> <p>今ちょっと大きい数字が出てきたんですけれども、これについての、もし今後この条例を生かすということになりますと、誰が一番先に行動するといいますか、そういうのがあった場合に、教育委員会としてはどういう対処を取るのか。今この条例を見ても、中心になって動くというのは一体誰なのかというのがはっきりしてこないというような感じを受けますんで、今あった数字が実際あるわけですから、あった場合の対処として、どういう行動を当町としては今後重点的に調査するのか、どのような動きになっていくのか、それについての行動を説明していただきたいと思います。</p>
<p>議 長 教育委員会 事務局 長</p>	<p>教育委員会事務局長</p> <p>まず、学校内において、いじめアンケートを実施して、その結果、まず先生方が把握するわけでございます。その結果については教育委員会でも把握しております。その結果というのは、教育委員会を通じて道教委のほうにも報告ということになっております。ですので、まずは学校内においていじめ対策委員会、各学校設置しておりますので、そこでどういった対応をしていくのかということが、まず最初の対応ということになります。</p> <p>その後、そこで解消できるということであれば、その後、いじめが再発しないかということはある一定期間、3 か月程度見ていくということは実施しているんですけども、もし、今時点では、そこまでは至っていないと、そこで解消しているということではあるんですけども、もし、この後、長引いたり重大事態に発生するということであれば、まず学校から教育委員会に報告があって、町長に連絡をするという形になっております。重大事態ということであれば、教育委員会が附属機関を設置して調査を実施すると。附属機関というのは、学校関係者であったり、</p>

	<p>スクールカウンセラーですとか、場合によっては児童相談所の方ですとか、いろんなそういった専門の方の意見を聞きながら、そういった委員会を設置して対応するという形になります。先ほど条例の中でも説明がありましたけれども、その結果についても、さらに町長のほうで再度調査する必要があるということであれば、今度、町長のほうで附属機関を設置をして対応していくという流れになります。</p> <p>以上です。</p>
<p>議長 中山議員</p>	<p>1番、中山議員</p> <p>今、教育長の説明では、何ら今までは問題なかったから表面化しなかったのかなというふうに理解するんですけども、やはり大事なことは、不登校も同じような対応をしなければならぬというのが、この内容から見るとあるわけですけども、不登校についての対応というのは、我が町において、うわさ的に聞けば、いろいろあるというふうに認知しているんですけども、そういう中で、対策防止委員会というのは、事件が発生してから設置するのか、それとも、常時、ある程度、長を決めてこの委員会というものをつくっていくのか、その辺について、厚沢部町としての体制の強化といいますか、素早く動けるような状況にしないと、子供たちが、長引く間にいろいろ傷つくということでもありますので、その辺の早急な対応ができるような体制を取れるのかどうか、その辺について、今後、今、どのように進んでいくのかお聞きしたいと思います。</p>
<p>議長 教育委員会 指導主事</p>	<p>教育委員会指導主事</p> <p>私から説明させていただきます。</p> <p>まず、いじめの認知の件についての、まずいじめの定義について御理解いただきたいと思います。</p>

2017年、平成29年3月11日に文部科学大臣が決定しましたいじめ防止基本方針がございます。これで、いじめの定義というものが大きく変わりました。これは何かというと、本人が、それまでは、それより以前は、けんかやふざけ合いはいじめの扱いとはせず、これはもうその場で謝罪したら解決としておりましたが、この基本方針によって、子供がどんな場面であっても嫌な思いをちょっとでもすれば、それは全ていじめとして認知するということとございまして、それを教育委員会で、今年度もはっきり各学校に周知しまして、実質的に認知の数が増えたということで認識していただきたいと思っております。ですから、今年度の教育行政執行方針にもありましたが、ちょっとでも子供が嫌な思いをアンケートでしたと書いてくれば、それは全ていじめとしてくださいということを書いております。それから、ですから、現在の考え方では、いじめは必ず、人間関係がある場合、起こり得るものとしての前提の上で、いじめの解消率を100パーセントを目指すというものが、本教育委員会の姿勢でございます。

なお、いじめが解消されたということについては、現在、要件が2つございまして、1点目が、いじめがやんでいると思われる状態が3か月以上継続していること。それから、いじめによる影響で、子供、被害者が心身の苦痛を感じていないと認められること、この2点の要件が、いじめ防止基本方針で文部科学大臣より決定しておりまして、この2つを基に、解消しているかどうかをいうのを判断します。この2つの条件の下で、解消がされていないという場合について、改めて委員会を開くということになってございます。

また、それまで、いじめの認知については、学校の教員がいじめの場を例えば発見したという場合に、それを個人で、これはいじめでない判断することはできなくなっております。個人の判断ではなく、必ず、ちょっとでもいじめに、アンケートに答えたとか、いじめに類するものを

	<p>見た場合には、必ず学校内に対策委員会を開いて、集団で専門的に、校長も交えた中でいじめかどうかを判断し、それを認知して対応するというところでございます。その上で解消がされていないという判断になった場合には、教育委員会でも専門チームを開いて解消に動くということでございます。</p> <p>それで、さらに重大事態と言われるものが発生した場合には、さらに町で検討するということになります。この重大事態も定義がございまして、心身に大きな影響があるというもの、例えば法律でございまして、いじめ防止対策推進法という、今度、法律で決められているのは、2点ございまして、生命、心身、財産への重大な被害、それから、相当期間、30日以上の不登校につながった場合には、重大事態として、北海道、それから国にも報告という義務があるというふうになってございます。それに基づいての町のいじめ防止基本方針となっております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 香 川 議 員</p>	<p>5 番、香川議員</p> <p>説明資料の3ページ、4ページなんですけれども、その中で、厚沢部町いじめ対策委員会、そして、第8章で厚沢部町いじめ調査委員会とあります。恐らくこれ、重大事態が発生したときのみの委員会なんだろうとは思いますが、その中で、両方とも、調査委員会は学識経験者5名以内で組織するとありますけれども、これは、重大事態が発生したときに5名以内の方を選出するのか、事前に内示した中で執り進めるのか、まずその説明をお願いします。</p>
<p>議 長 教 育 委 員 会 事 務 局 長</p>	<p>教育委員会事務局長</p> <p>教育委員会の附属機関、それから町長の附属機関ということでありまして、こちらについては、重大事態が発生してから設置をしようというふうには考えております。ただ、前段で、</p>

	<p>こういった、今回条例化するわけですから、関係者、学校ですとか教育委員会、その関係部署には、条例をつくったということで、何かあった場合にはすぐ動けるようにということで周知はしておこうかなというふうには思っております。</p>
<p>議長 香川議員</p>	<p>5番、香川議員 その委員会なんですけれども、第7章のいじめ対策委員会は、処務が教育委員会事務局学校教育係なんですけれども、いじめ調査委員会になると、処務が総務財政課総務係になるんですけれども、その理由について説明をお願いします。</p>
<p>議長 教育委員会 事務局長</p>	<p>教育委員会事務局長 まずは、学校から重大事態の報告があった際には、教育委員会で動くということで、附属機関を設置します。その処務については教育委員会のほうで行うということです。さらに、その結果について再調査が必要ということであれば、やはり第三者ということで、さらにその上の機関といますか、教育委員会から離れて町長の部局で調査をしていくということですので、その処務については総務財政課のほうで担当していただくということになっております。</p>
<p>議長 高田議員</p>	<p>2番、高田議員 今、香川議員が言ったのと同じ中身を聞いたかったですけれども、もう一つ、それぞれの委員会の中で、当該事案に関係のある委員は調査に参加させないことができるんですが、まず1つは、関係のあるというのと、これはどういう見方をして関係があるという捉え方をするのかというのと、私、これ、させないことができるじゃなくて、させないと言い切ったほうがいいんじゃないかと思うんですが、この辺はどうでしょうか。</p>
<p>議長</p>	<p>教育委員会事務局長</p>

<p>教 育 委 員 会 事 務 局 長</p>	<p>関係者ということでございます。ですので、いわゆる親族ですとか、今まで長く関わってきた方というんですかね、そういった方を想定しております。ですので、そういった方については委員から外れていただくということを思っております。</p>
<p>議 長 教 育 委 員 会 事 務 局 長</p>	<p>もう一つ、何でしたっけ。 言い切ると。 そこについては、ちょっとそのときの状況によるのかなというところですので、させないという方法もあるのかなと思うんですけれども、条文の中では、させないことができるということで、少し含みを持たせてということになるのかなと思っております。</p>
<p>議 長 高 田 議 員</p>	<p>2番、高田議員 マニュアルがあって、それに基づいてつくったものだろうとは思いますが、実際のところ、北海道で、旭川でいじめ、自殺という問題というのがあって、それが結構、これをつくる基になったんでないかなと思うんです。その中で、結構、この調査委員会というのを見ますと、みんな関係者が入っているんですよ、大体。関係者が入っていて、それなりの答えを出しているという場合があるので、はっきり、これはもう、できるじゃなくて、させないという言い方のほうがいいんじゃないかと思うんです。ただ、考え方として、この文章を使ったとしても、させないというふうな意識というか、意図でやってもらいたいなというふうに思います。特に回答は要らないです。</p>
<p>議 長 議 長 議 長</p>	<p>ほかに質疑ありませんか。（発言する声なし） それでは、質疑を終結します。 討論に入ります。（発言する声なし）</p>

議	長	討論を終結します。
議	長	議案第5号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第5号厚沢部町いじめの防止等に関する条例の制定について、原案どおり可決されました。
議	長	日程第11、議案第6号北海道後期高齢者医療広域連合規約の変更について、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	住民税務課長
住民税務課長	長	議案第6号の北海道後期高齢者医療広域連合規約の変更について御説明いたします。（議案内 容説明記載省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。（発言する声なし）
議	長	質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（発言する声なし）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第6号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第6号北海道後期高齢者医療広域連合規約の変更について、原案どおり可決されました。
議	長	日程第12 議案第7号厚沢部町うずら温泉改修工事建築主体工事請負契約の締結について、 議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	政策推進課長

政策推進課長	議案第7号の厚沢部町うずら温泉改修工事建築主体工事請負契約の締結について説明いたします。（議案内容説明記載省略）
議長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑ありませんか。（発言する声なし）
議長	それでは、質疑を終結します。
議長	討論に入ります。（発言する声なし）
議長	討論を終結します。
議長	議案第7号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議長	異議なしと認めます。したがって、議案第7号厚沢部町うずら温泉改修工事建築主体工事請負契約の締結について、原案どおり可決されました。
議長	日程第13 議案第8号字の区域の変更について、議題とします。
議長	議案の説明を求めます。
議長	総務財政課長
総務財政課長	議案第8号の字の区域の変更について御説明いたします。（議案内容説明記載省略）
議長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑ありませんか。（発言する声なし）
議長	質疑を終結します。
議長	討論に入ります。（発言する声なし）
議長	討論を終結します。
議長	議案第8号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議長	異議なしと認めます。したがって、議案第8号字の区域の変更について、原案どおり可決されました。

議	長	日程第14 報告第1号厚沢部町一般会計繰越明許費の繰越について、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	総務財政課長
総務財政課長		報告第1号の厚沢部町一般会計繰越明許費の繰越について御説明いたします。（議案内容説明記載省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑ありませんか。（発言する声なし）
議	長	それでは、質疑を終結します。
議	長	報告第1号厚沢部町一般会計繰越明許費の繰越について、報告済みとします。
議	長	日程第15 意見書案第1号から日程第18 意見書案第4号までの4件を一括議題にしたいと思いを。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。
議	長	お諮りします。意見書案第1号から意見書案第4号につきましては、議会運営委員会で協議し、提出することに決定しております。したがいまして、あらかじめ配付しておりますので、朗読及び質疑、討論を省略して、原案どおり決したいと思いを。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、意見書案第1号地方財政の充実・強化に関する意見書、意見書案第2号義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書、意見書案第3号ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書、意見書案第4号生涯を通じた歯科検診の実現を求める意見書の4件につきましては、原案どおり可決されました。

議	長	日程第19 閉会中の継続調査の申出について、議題とします。
議	長	お諮りします。総務文教委員会委員長及び産業厚生常任委員会委員長から、お手元に配付のとおり閉会中の継続調査の申出がありましたので、両委員長からの申出のとおり閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、総務文教常任委員会委員長及び産業厚生常任委員会委員長からの申出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定しました。
議	長	日程第20 議員の派遣について、お諮りします。会議規則第120条の規定によって、お手元に配付のとおり議員を派遣することにしたいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、お手元に配付のとおり議員を派遣することに決定しました。
議	長	以上で本定例会に提出された案件の審議、全部終了しました。会議規則第7条の規定により、これをもって会議を閉じたいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声）
議	長	異議なしと認めます。したがって、本定例会はこれをもって閉会することと決定いたしました。
議	長	令和6年第2回厚沢部町議会定例会、閉会します。御苦労さまでした。（13：50）